

日本クツカリー八千代工場（千葉県八千代市）は、コンビ二向けの麺類やサラダ、チルド弁当の加工を手がける。同社は脱炭素化に向け、2030年度までに年間の二酸化炭素（CO₂）排出量を全社で18年度比30%減の2万7416トに削減する計画を掲げている。計画達成に向けた取り組みの一環で、5月に熱交換器を導入した。排熱回収により、CO₂排出量とエネルギーコストの削減につ

なげている。同工場では毎日多くの熱や温水を排出しており、熱回収を検討してきた。だが、「従来

モノづくり現場

生産革新・脱炭素社会への挑戦

⑦

日本クツカリー 八千代工場

スパイラル式熱交換器導入

エネ費用 1台で年200万円減



型のプレート式熱交換器は流路が狭くつまりやすく、メンテナンス費用がかかる」（福田）

今回導入したのは、クロセ（大阪府高石市）のスパイラル式熱交換器。2枚の伝熱板を渦巻き状に巻き付けて流路を2

ミトシ製造部工務課が課題で、導入のが課題で、排水を通して詰まりにくい。食品工場や下水処理施設などに多くの採用実績がある。特に今回導入した熱交換器は直径が30センチと小型で、狭いスペースにも設置できる。同工場では、コンテナ洗浄機に熱交換器を20度Cの井戸水を温め、40度Cまで温度を上昇させて洗浄タンクに供給している。ボイラから排出される100度の熱も併用し、ガ

スの使用量を抑えつつ効率的に昇温できる。狙い通りの効果が得られたことから追加導入し、ゆで麺機の熱回収にも使用している。「少なくとも1台当たり年間200万円のエネルギー削減に貢献する見込みだ」とする計画だ。

（千葉・苦瓜朋子）
（おわり）

【事業所概要】▽所在地 千葉県八千代市上高野1795の5、047・480・18001▽主要生産品 麺類、サラダ、チルド弁当▽年間CO₂排出量 8631ト

器の設置が難しい場所には、別の熱交換器を設置予定。このほか、自家消費型の太陽光発電パネルを設置し、工場で使用する電力の2・6%をまかなっている。